

国際セミナー「モバイル・ビッグデータの交通計画への活用」

チャヤタン・プロムソーン タイ運輸省 局長 来賓挨拶

梨田和也在タイ日本大使館大使、岡西康博国土交通省国際統括官、宿利正史運輸総合研究所会長、アーコム・トゥームピッタヤーパイシット前運輸大臣、ASEAN 各国の代表、ASEAN 事務局の代表、日本の代表、そして、ご来賓の皆様へ

タイと日本、またはタイ運輸省と日本の国土交通省は、常に密接に連携しており、環境に配慮した物流輸送、陸上港湾、鉄道など、タイ・ASEAN・日本の交通能力向上に資する重要な交通課題についてミーティングやセミナーを継続的に開催しています。

本日、国土交通省、運輸総合研究所の下、バンコク、すなわち世界で最も交通量の多い首都の一つにおいて、モバイルビッグデータと交通計画に関するセミナーが開催されたことに対して、運輸省の代表として感謝いたします。交通計画にモバイルビッグデータ(MBD)を活用する可能性や日本の実際の経験を聞くことは、私たちにとって素晴らしい機会です。

交通実態調査は、交通計画における重要な要素です。国の方針策定、インフラストラクチャーの効率的な整備のため、また市民の移動ニーズを知るためには、どこからどこへ移動するか(起点-目的地(OD)など)を調査する必要があります。調査方法としては、面談、電話、郵送、e-mail、web 上等があり、各方法は一長一短があります。中でも移動目的を詳細に把握できることから、面談調査が良く行われていますが、これには長い期間と高いコストを必要とします。

MBD には、データ量が大きくいつでも更新できる、という特徴があり、都市・国レベルでの交通計画に対して適切なデータであります。CDR というデータを利用して基地局からのデータが収集されます。通信会社との連携により、個人情報を整理して、交通量、距離、移動速度を分析するための所有者の位置データが取得できます。アプリケーションや Wi-Fi データを活用した移動交通モードの分析も可能です。また、モバイルビッグデータは、公共交通システムの運営の質の改善や、人口密度の高い時期・場所への支援、利便性・安全性向上や、防災管理などに対応することで、大容量データとしての付加価値を高めることができます。

運輸省は、公共のため様々な形で利用可能性のある MBD の価値を認識していますが、2020 年 5 月には、2019 年度個人データ保護法が施行され、データ所有者のプライバシーを侵害しないように MBD を利用することは、運輸省にとって難しいこととなります。

そのため、今日の MBD を交通計画に活用するセミナーは、MBD をタイと ASEAN 地域の交通計画に活用する可能性を検討するための良い機会と考えられます。この場において、ASEAN 加盟国がビッグデータの活用と課題となっている状況に関する情報を交換・検討し、引き続き MBD が有益であることを共有させていただきたいと思えます。

最後に、今日のセミナーは成功裏に実施され、輸送計画のための MBD の活用において全ての部門に利益をもたらすと期待しています。また日本政府がタイを一貫して支援していただいていることに改めて感謝いたします。今後のプロジェクトにおける日本からの更なる支援及び協力をよろしくお願い申し上げます。

以 上